



出前講座たんぽぽ

高野山真言宗 自死者慰霊法要講演

出前講座たんぽぽは、Sotto の提供する出前型の講座です。去る6月28日、高野山真言宗社会人権局の「宗教者がどのように自死に向き合うことができるのか伝えて欲しい」との依頼により、僧侶でもあるスタッフのりゅう（臨済宗）とヒロ（浄土真宗）が赴きました。講題は「Sottoの想い～自死の苦悩との向き合い方～」。一般的な講演会ではなく、漫才のように2人の掛け合いで行いました。当日の雰囲気を感じていただくため、報告も掛け合いでさせていただきます。

ヒロ 学生さんが対象と聞いてはいましたが、高校生ぐらいの子たちから大学生、社会人ぐらいの歳の方まで幅広く居られたのに驚きました。どの層にも意図が伝わるようにと考えると難しさを感じました。りゅうさんが特に伝えたいと思ったのはどのようなことですか？

りゅう 自分の経験談を通じて、苦悩を持った方に本気で向き合う、覚悟を持って向き合うということですね。本気で向き合ってくれる、心底自分に添ってくれる。つまり自分の100%の味方でいてくれるという事が伝わることの意味の大きさですね。受講生からも「命の大切さを説くのではなく、まずその苦しい気持ちをしっかり受け止めることが大事とわかった」という声がありましたね。ヒロさん、宗教者として自死にどう向き合うかということについてはどうですか？

ヒロ ある方から「子どもを自死で亡くしたんですが、ちゃんと成仏できるでしょうか」と問われました。私は浄土真宗の信心に基づいて「心配ないよ。ちゃんと成仏できるからね。阿弥陀さんはみんな等しく救ってくださるからね。一緒に手を合わせましょう。」と答えました。その言葉に「ああ、これでもう今日は安心して寝ることができます。」とおっしゃいました。

りゅう ヒロさん自身が阿弥陀仏の救済を確信していることが、その方にとっても支えとなって伝わったのですね。宗派により拠り所とする考えは違うにしても、それぞれの信ずるところをきちんと言葉にして話すことができるというのが大事ですよ。またその確信、揺るぎのなさが安心につながるんでしょうね。

ヒロ 「自死」という、そもそも忌避されがちなテーマや 死生観に関わる苦悩は他の支援者には踏み込みにくいテーマでもあると言えます。宗教者である我々だからこそ関われる領域にしっかりと向き合うこと、またその支援に取り組んでいくことが大事だと思います。またたんぽぽの依頼があれば、このような形式の講演を試してみたいですね。その時はまたよろしく願います。

生越理事長×竹本代表

2010年の開設から8年。Sottoの活動を継続するなかで、開設当初より鮮明になったSottoの特徴や大切にしていることについて、今年度から理事長を務める弁護士が生越と代表の竹本の対談でお伝えします。



vol. 3 「やれることを一生懸命に」

団体が継続してきたなかで、変化してきたことや、活動をするなかでより鮮明になってきたことってありますか？

竹本：変化してきたことね、やっぱり最初の頃は硬さみたいなものがあった気がするね。

生越：へえー、こうあるべきだって感じ？

竹本：そう、こうじゃなきゃダメなんだっていう思いが強かった気がします。これこそが全てだ、Sottoが一番だっていう思いがあった気はするかな。

生越：そっか、意外。あまり感じなかったな（笑）。

竹本：なかったのかな（笑）。そんなに強くはなかったですけど。やればやるほど、うちも一部でしかないんだと思うようになった。色々あるなかの、うちは一部を担っているだけのこと。だけど、この一部分ではどこにも引けを取らないプロの団体になろうという意識が明確になってきたことは変化ですかね。最初の頃はぼんやりと他の団体と連携しながら何となくやっていけたら良いのかなという気持ちは何となくあったけど。

生越：無理して連携する必要はないよ。連携はあくまでも手段だからね。お互い目的が一致して、そのために必要ならばやるべきだとは思うけど。

竹本：そうですね。他の団体は Sotto のここを使いたってなったら協力することもあるだろうし。Sotto もこの部分が足りないからどこかに協力してもらおうとか、良いなと思う人とは一緒にやっていきたいとは思うようになったかな。そんな硬さみたいなのは最初より取れてきた感じはしますかね。へたなはなし、大事なところ以外は何でもいいじゃんみたいな、肝は座ったかもしれません（笑）。

生越：なんとなるよ、みたいな（笑）。そのいい加減さがいいかもね、もちろん、いい意味でね。この問題、どうにもならないでしょう。私も最近ね、ほんとどうにもならないなと思っちゃった（笑）。

竹本：弁護士の方がそんなこと言っちゃっていいんですか（笑）。

生越：いや、この問題はどうにもならんね。たくさん見てきましたけど、システムのどこにかしようと思っても手のつけようがない。もちろん、将来的に何か変化があればいいですよ。最近、ある種のアきらめというか、諦観というか、諦念というか。諦めるけど諦めないみたいな。受動的な姿勢。

竹本：無駄な期待はしないみたいな感じですか。

生越：そう、やれることをひたすら一生懸命やる。そりゃ、自分の仕事、領域では諦めないですけど。だけど、それで何が劇的に社会が変わるとは思えなくなったかな。いまのシステムチックに問題解決をしようという流れの限界が分かっていないと途中で折れちゃう。こんだけやってもどうにもならないとがっかりしちゃう。オリンピックが終わったら、また数は増えてしまうんじゃないかな。景気の影響は絶対ありますからね。

竹本：そういう意味で Sotto はやれることと、やれないことが、とてもシンプルで明確になってきていると思いますね。目の前の、孤独な状態にいる人に、僕らの暖かさが伝わることによって、その孤独感が和らぐ、ということは僕らができること。それ以外のことって、そんなに上手くできないと思っています。

（続く）

今月のことば

母を きっと やさしく して あげたい

(友原康博「母の質」より～都築響一『夜露死苦現代詩』所収)

活動報告

- 10月期電話相談件数…160件（無言16件、よりそいホットライン担当54件を含む）
- 電話相談委員会 … グループ研修 10月14日7名、19日8名
- 10月期メール相談件数…受信94件、送信79件
- メール相談委員会…委員会会議 10月18日7名、27日4名
- 居場所づくり委員会 … 委員会会議 10月31日3名
- グリーフサポート委員会 … 委員会会議 10月12日5名
- 研修委員会 … 委員会会議 10月10日6名
- 広報発信委員会 … 委員会会議 10月16日7名
- 映画委員会 … 委員会会議 10月27日4名
ごろごろシネマ 10月13日3名（参加者1名）、23日3名（参加者1名）
- ファンドレイジング委員会 … Sotto トーク 10月25日1名（参加者25名）

寄付ご協力一覧（敬称略・順不同） 2017年10月1日～31日 受付分

ご支援ご協力ありがとうございます。

浄土真宗本願寺派
株式会社エクザム
葛野洋明
荻野昭裕
石井俊司
吉田郁子
上田新一
京都市・一念寺
宍粟市・明宝寺

竹本崇嗣
松山市・西福寺（二宮朋生）
小濱春子
匿名希望1件



Sotto コメント

子どものころに好きだったスノードームをプレゼントされた。
うれしかった。でも、1日で割れてしまった。(N.Y.)

発行 2017年11月
特定非営利活動法人 京都自死・自殺相談センター事務局
〒600-8349 京都市下京区西中筋通花屋町下ル堺町92
TEL 075-365-1600
URL <http://www.kyoto-jsc.jp>
E-mail so-dan@kyoto-jsc.jp